

白 報

第 四 号

目 次

園正造先生を訪ねて	中 村 進
前会長挨拶	山 下 タ ミ
会長挨拶	豊 泉 し げ
“動物の心”	高 木 貞 二
“立体解析幾何学の歴史”	矢 野 健 太 郎
総 会 報 告	
通 信	
求人求職について	
幹 事 名 簿	
編 集 後 記	

東 京 女 子 大 学 同 窓 会 数 専 会

園正造先生を訪ねて

中 村 進

先日短大協会の総会が神戸で開かれ、学校代表としてそれに出席したが、その途次京都に立寄つて昔の恩師園先生をお訪ねした。

先生は今は西京大学の学長としてその温容と明敏を称えられておられ、私の久しぶりの訪問を大変喜んで下さるで及連の様に心易く迎えて下さつたが、私達の学生の頃は群論で世界的に名を知られた長軀白哲の教授で貴公子然として居られ、少しばかり気むづかしく、ちよつと近寄り難い感じであつた。「久しぶりの京都なら、どうだね天気がいいから紅葉にでも案内しようかね」と早速学校の車、ナッシュがシボレーが知らないが大変乗心地のよい車に乗せられ、北野を過ぎ御室を通りさへは嵐山かと思つたが車は次第に谷間に分け入り、着いた所は清らかな溪流に沿つた^尾の尾であつた。

此間市心からおぼつかに三十分、東京駅からせいぜい中野まで位の距離で奥多摩か秋川の溪流に出られたと云うわけ、やっぱり京都はいいなあとつくづく思つた。

尾の名は小学校の頃から地理の本で知っている耳なれた名所であるが三年間の学生時代にもついに訪れる機会のみかつた所である。

溪から少し登つた小高い森の中に高山寺という園宝級の古い小さな寺がある。その住持は元文部省の督学官で先生とは昔から親しい仲だそうであらう寺ではお茶の会が開かれていたので先生は勝手口の方にまはり「やあ、また来ましたよ」とつかつか上つてゆかれた。

本堂の楹に腰を下し、秋の日ざしをあびておうすを一眼覗きながらながめる紅葉の山はまた一入と云ふところ、さけむした庭石の一つ一つにも何とも言えない味がある。禅味と云ふのが日本人の身についた郷愁のようなものが感ぜられる。

休むこと一時間あまり、再び車中の人となつて山を下る。「今の和尚さまのお名前は」とうかがつたら「名前などいいぢやないか、高山寺の方大殿で結構だよ」と答えられた。

なるほどくそのものを知れば戸籍謄本などはいらない筈。

車が町に近づくとつれて話は再び学校経営の問題に移り「君の学校には数学と体育があるそうだが」就取状況は？ 結婚状況は？ と質問される。

西京大学にも女子の短大があり新しく何かの科を置き度いと考へて居られる御様子である。

「女子の学校を經營するには就取だけでなく結婚のことも考へなければならぬからぬ」それは要するに男子青年達がその卒業生をどう見ているかと云ふことになり、結局一般社会の理解と評価を意味していることになるとの御説である。

そこで先生は昔の學生に一つの宿題を出された。「君、数学科と体育科の結婚率を調べて呉れないかぬ、他の科と比較してだよ」

帰りの汽車の中で此宿題のことを考へた。簡単な様でも女子大での調査は相当面倒であることに気がついた。名簿がはつきりしていないからである。先づ移動報告を正確にしてもらうことから始めなければならぬ。など考へながら精進したら、十一月は吉日が多かつたのか結婚通知や招待が三區来ていた。而もみんな数理科の卒業生であつた。(三十一年十一月)

前会長挨拶

山下タミ

土用とは申しませんが、毎日不貞でございますが會員の皆様にはお便やかにそれぞれの持場で御精進のこと、存じます。私共同のコースに学んだものが縦につながり、時代をこえて親戚をはかり、戦争で消息のわからなくなつておられる方々の消息もたずぬ合えればという念願から数専会の前身が生れました。その二代目の会長という重任を背負い何かしなければと気持はあせりながら、不承な故に何にも出来ず二三年が過ぎました。ところが時代も可成り落ちついて来ましたので、この辺で会則でも作り単に親睦会的なものではなくもう少し、しっかりしたものにしてはと先生方の御意見もあり、会名も数専会と改め簡単な会則も作り更方の方や都内にいらつしやっても、お忙がしくて母校を訪れることの出来ない方々に通信の出来るようにしたいということから、まだたどたどしい歩みですが会報が生まれました。研究や講演会もポツポツ始めています。

今度改選期に当り長い前会長の座を汚し無届にすごしてしまいましたことを、おぬびさせて頂きますと、もに、この会の立案者の一人である豊泉さんに会長になつて頂けてやつとこの会も落ちついた感じがいたします。豊泉さんは数学専攻部の一回生でいらつしやいまして真面目で熱があり賞状も十分備えてい

られる方、そして副会長中尾さんは何事にも熱心でお子さんも皆高校卒以上
になられ時局にも余裕がおできのようですので、このお二方の細かい御配慮
により本会が活発に動き成長されることを心から祈るものでございます。私
共教専卒のものも数理科卒のものも一つになって母校につながる自分達の会
を育てるために御協力いただきたく存じます。(昭和三十一年七月)

会 長 挨拶

豊 泉 し げ

皆様御元気でいらっしゃいますか。十一月十四日(水)会則の変更をして
いただきたくて矢野先生の講演会に便乗して午後一時から臨時総会を開きま
した。Weekdayのまひる時だけにゆくく々には到底出席出来とうにもな
い。衆して何人が出席して下さるか内心案じて居りましたが、大勢の方々い
らして下さりまして本当にありがとうございました。皆様がこの会を盛りた
てようとなさる熱意の程が知られ幹事一同元氣百倍励まされております。
競争進行も「どなたか異議なしとおっしゃって下さい。時間がありませんの
で」というあんばいにてニコニコ会議で短時間で終らせていただきました。
係りの方から報告があると思いますが御度下さりまして御氣づきの点がござ
いしましたら幹事迄御申し下されませ。

六月の総会の時に話合いました四年制の学部ということにつきまして、も
っと具体的に書いて下さるとの地方からの声もございましたが実は私も何も
持ちあわせがないんです。

唯現在の学生も之には深い関心を寄せているという事だけ申し上げられます。
四年制という言葉を出しただけでも顔色がサツト変わる事から想像してもその
輪が何であるか、又如何に切実であり悲壮であるかが伺えます。況して高木
学長先生におかれてはどんなにか心を痛め私共の想像すら及ばない苦勞をし
ていらっしゃるかと思いますと唯々感謝申し上げますと共に只管に事の成る様祈り
たいだけでございます。それに致しましてまだ手をつか収めているだけでは
申訳ない。卒業生も何か出来る事は無いだろうか。こんな事を考えて毎日過
してあります。研究会、講演会も出来るだけ充実した物にしどきの形へ移行
出来る様に基礎をつくりたい事もその一つ。誰でもすぐ考える様にお金も難
分かつるでしょうから少しづつでも集めたいという事もその一つ。もとより
私共の力は微々たるもので總べてはただ学校に頼る筈はないのですが私共の

気持だけでもあらわしたいのが目下の教専会の頼という処でしょうか。皆様何か御考を御さかせ下さい。挨拶にかえて右思いのまま書いてみました。

昭和三十一年十一月

動物の心

— 昭和三十一年六月二日講演 —

高木 学 長

動物に心があるか、という問題は心というものはどんなものかという問題とすぐ関連して考えられると思う。昔からこういう問題は多くの学者によって取扱われている。次に二人の哲学者の定義を述べてみよう。

紀元前のアリストテレスによれば「心とは生命をしてその働きをなせしめる原理である」即ち生命活動の原理として、いわば実体的な原理として考えられていた。心には次の三つの段階があるという。

1. 植物の精神 (栄養、繁殖、成長をうながす。)
2. 動物の精神 (栄養、繁殖、発達の他に運動感覚をつかさどる。)
3. 人間の精神 (以上のものの他に理性を含む。)

従つて心は植物、動物、人間にあるとし、精神は生命活動の原理、実体的な原理と考えられていた。

これに対し非常に異つた考え方は、近世の始めに出たデカルトである。彼は懐疑から出発して、疑つても疑い切れないもの、それは疑っている自分というものは疑う事が出来ない、という事から「我思う故に我あり」との命題に到達した。この様に自分が意識しているという直接経験に精神の本質を求めている。そして存在には二種類あり、その一つは精神であつて意識する事がその特性であり、もう一つは物質であつて広がりをもっているということがその特性であるとした。従つて結局動物は心を持たず、単なる物であり、自動機械に過ぎないとした。この考えを押しつめて行くと思ひ切つた考えにまで発展する。これを感つた方に発展させたのが、ジョージ・バクレー (経験論者) である。彼は自分が経験している事が一番確かなものであり、知覚しているから物が考えられ、知覚作用から離れては物は存在しないと云ふ。それを押しつめてみると直接に体験し得るものは自分の経験であり、人の体験は自分には分らない、人の痛さは自分には感じられない、他人が存在している事を認める事は自分が存在しているからである。これは独我論 (solipsism) に準いて行く道であるが、勿論これを正論から唱えた人はいない。

しかしこの考えを押しつめてみると、心を自分の意識に限ってしまう所迄来る、動物に心があるか否かは問題でなく、他人に心があるかどうかさえわからない事になる。

さてアリストテレス的思考方は多くの人にとって奇妙なものであると考えられる。例えば、木を切る事はよいが、動物を殺す事はつらい。即ち植物に心がなく、動物には心があるという考えである。しかし植物でも、人間でもこれの表わしている色々な活動即ち働きは、見方によってはよく似たものである。植物はテンポが遅いので、動物と一緒にする事は難かしいが、写真を時間をかけて撮ってみると、みる間に花が開く所等いかにも生命がある様に見える。撮取り草の運動は動物の働きと異なる所がない。逆に人間の運動で、例えば百米レースをやっているランナーを高速写真機で撮り、スローモーションに映すとまるで軟体動物の運動の様で、ここに類似が表われて来る。

この様に生活活動は似ているけれど、心の活動をみるとそう簡単に行かない。この時心をどの様に考えるにしても一方に心を認めて、他方に心を認めないのは理屈に合わない様である。家畜の中に心の働きを認めない人は恐らくないであろう。畜し、うれしさの表情をみるにつけ、誰も心があるのを認める。動物の心はある人にとっては明らかである。「一寸の虫にも五分の魂」と言われたり、解剖動物の飼養等をする様に普通の人は動物の心を認めている。しかし「心ありや」と向う時果して誰れでもがそれを認めるであろうか。その場合には定義の仕方、解釈の仕方色々で違って来るのではなからうか。

そこで心理学ではどの様に考えているか、此の頃の心理学では「心とはどんなものか」という問題に解答は求めにくい。科学としての心理学では誰もが認めし、経験出来る事実だけに基いて、これに誰もが出来る論理的操作を加えてこの学問を組織化する。それ以外には学問の材料として何物も認めない。端的に申せば、そういう意味で学問の対象となるところの事だけを扱うのである。俗にいわれている、「心」とか「魂」とかは科学としての心理学の対象とはならない。そこで誰でもが経験出来る、事情に応じて求められ、検証することの出来るものは動物、人間の表わす行動である。この中には言語表情も含む。動物がどの時々にどういう行動をするか見る事が出来る、又計量する事も出来る。それを出発点として扱って行くのが心理学である。但し、物を物として扱うのは心理学ではなく、身体の運動でもこれを分析的に扱うと生理学になる。全体的に環境との関係において巨視的にその活動を問題にして行く。その時どういう条件に対しどういう行動をするかが問題である。

いつも行動は周囲の世界に応じて起る。周囲の刺激条件に応じてどの様な行動が生じるか。この関係を明らかにする事を主眼とする。この関係は簡単にきまる問題ではない。同じ刺激が与えられても、受ける動物、人間の状態によつて異なる。動物、人間は、それぞれ複雑な構造を持ち、一つの刺激に対して一対一対応で出てくるものではない。同じものが効いても、優つたところの有機体に効きかければ優つた行動をする。この刺激と行動をはつきりつかむ爲には有機体そのものの構造をはつきりさせる必要がある。これは現在の生理学、心理学ではよく分っていない。これが分析して、分析つくされたとしても、その時の状態のみでなく、前の状態も含んでいるから、我々が現在他の研究を利用して行つても、これは極めて未知の世界なのである。我々にとつて許されているのは、未知の世界を匯して刺激条件と行動を結びつける事である。未知の世界を我々の手で論理的に構成し結びつける事の出来る組織を作り出す事である。これを完全にやる事は、実際には不可能に近いと思われる。それは、実験によつて験す事が出来ないからである。これをやるには、一定の論理的な推論から期待されるものが果して出るかどうかを実験的に試めす。これが出て来ると、その時の仮説が有効な理論として取り上げられる。そしてこれ等の理論が積み重なつて、一つの生活体の行動の原理が出来上がる。これは、何時も絶えず変えられ、より包括的な理論に置き換えられる。刺激と行動を結びつける理論体系を作るのが、今の心理学の目指すところである。それなら心は如何なる仕方で構成されようとしているか。行動を以てし、これを持ち来たらす論理的に構成された構造が、心理的働きを争き出すなら、この構造が心的構造である。そしてその意味でこの心的構造を心と呼ぶ事が出来る。

具體的な例として人間の色盲の例をあげる。色盲の経験は、色盲でない人には分らない。普通の人でも同じピンクの花を見ても色の感じが皆ピツクリ同じであるかどうか分らない。色盲が分つたのは割合に近いことで、イギリス人のドルトンというクエーカー派の学者によつて見出された。彼は色盲に対して初めて科学的な記述をした。彼は豪格な地味な性格にも拘らず、講義の時に緋のガウンを着ている。彼はこの色は自然界の木の色と同じ色だと云つた。彼が研究して色盲現象が明らかにされた。色盲の人は、普通の人と同じ感覚に色を見る事が出来ない。赤緑色盲というのは、赤、緑の区別がつかない。両方の異い色を見せるとどちらも灰色に見える。

この様に色の見え方にしてもこれは自分のみに分っている事であつて、他人がどんなに見ているか直接には分らない。他人の見え方は、他人が色を

思っている時に、それに対してどんな反応を示すかを観察する事によつてのみ知り得るのである。他の人の反応が、自分の反応と全くの場合において等しい時には、同じ経験をしていると推論するのである。そういう事で物の見え方というのは行動に基いて構成されたものである。刺激に対して反応する、その仕方にもとづいて見え方の構造を明らかにし、それらの結果、見えの世界というようなものが構成される。これが見えだけでなく、その他の感覚にも及ぶ時に知覚世界となるのである。そしてその構造を明らかにする事が、心理学の仕事の一部となる。この構造は人間においては自分で分り、又他人との比較も簡単だが、動物ではそれを知ることが非常に難しい。例えば、犬は色が見えるか、音がどの程度聞えるのか、或は匂が人間よりもつと鋭敏に区別出来るか等々の問題があるが、それは直接には分らないが、実験的にやってみてはじめて分るのである。これが下等動物になるともつと困難となつて行く。例えば雄の蛾が数哩離れたところにいる雌の蛾を捜う等どうして出来るのかよくわからない。又オランダの心理学者ユクスキユールがダニの生態を研究した。それによるとダニは皮膚で明るさを感じ、目耳はない。動物の汗くさい臭い(酪酸の臭い)を感じる。それ故、酪酸の臭いを感じると木から手足を吊して下に落ちる。そしてうまく動物にのつくと温かい軟かい所でももの少い所を迷ひで棲居をとる。酪酸の臭いが、来ない時は何時までも木の上で待つている。一番長いのは十八年間と水を待つていたという記録がある。その間のダニの世界はどんなものであつたか、音も聞えず、目も見えない。時間、空間はどんなものであつたか、これを思ふ時、環境が各個体において成立する特殊なものであり、外の物種的なものと違ふ事がよく分る。

一時学者の間で心とはどんなものかが、問題になつたが、ある人は、学習(経験により行動が変る事)の出来る事が、心のある証拠であると言つた。即ち高等動物は学習出来るが、下等動物になると少くなる。しかしアミーバでも強い刺激を与え、これを繰り返すと行動を変えて行く事が出来る。この様にして心のあるなしを決めようとした人もあるが、それでは決められない。

心をどう定義しようとする勝手だが、心理学では、はっきりつかめる動物の行動を基として、それを導き出していると思はれる構造についてそれを心と呼ぶ。そうするならば、そしてその意味でならば、動物においても心がありその構造を人間の心と同じ様に明らかにして行く事が出来る。

これらは心理学の立場で述べたが、立場が変わると全く違ったものになる。常識の世界では、心というものを全く違ったものにしてゐる。宗教的経験等

と科学で扱う内容とは次元の違いがあり、これを混同するのは避けるべきである。心理学は科学として研究を進めているものであり、これは一定の約束の上に立って、一定の仕方で行う研究を進める。従ってかくして得た科学的認識には *limit* がある。人間の世界はもっと広く科学をもその中に含んだ立場にある。そこで言われる事と一定の制限内で行う科学の定義とは *order* の違いがある。これらの点をはつきりさせ、以上の事を眺めて行くことが必要と思う。(終)

立体解析幾何学の正史

— 昭和三十一年十一月十四日講演 —

矢野 健太郎

わたしは矢野です。

さっき、あちらで先生方に、今日は固い話をしまししょうか、それともばか話をしまししょうかとお聞きしたら、先生方はむずかしい顔をして黙っておられました。やはりばか話はまずいらしいですからはじめはまじめな顔をして固い話をして、後で時間が余つたらばか話をやりましょう。

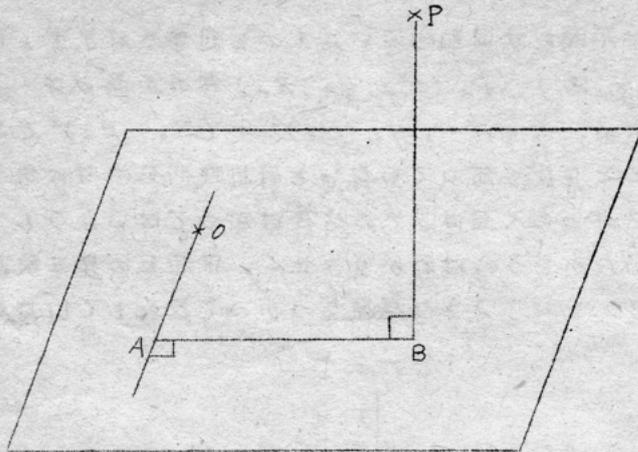
解析幾何は、高等学校では数学Ⅱに入っています。単位では数学Ⅱの3単位の $\frac{1}{4}$ です。代数、微分、三角法、解析幾何が $\frac{3}{4}$ 単位づつになっています。座標を使うことは数学をずっとやつてゆくの、非常に役に立つので、大学でも一年くらいやるというのですが、この頃は、初等解析幾何なんか教えたくない。大学の講義もいきなり「*n*次元」空間からという空気があります。みなさんはいい学校をお出になつたから、さつと立体解析幾何もみっちりやられたでしょう。

解析幾何は、たいてい *Fermat* と *Descartes* が作ったと教わりますね。しかしこれは平面解析幾何学のことです。平面解析幾何学のごときはよく御存知と思いますが、立体解析幾何の正史の方はあまり知られていません。*Fermat* と *Descartes* については繰り返しませんが、文献を見ますと、三次元空間の点の座標のことに始めて触れたのは

Philippe de la Hire (1646-1718) が書いた *Nouveaux éléments des sections coniques* つまり「円錐曲線論」という本です。

空間に一定平面があつて、その上に一定直線があるとき、その直線の上に

一点 O を指定します。空間の点 P から平面に下した垂線の足を B 、 B から定直線に下した垂線の足を A とすると、 OA 、 AB 、 BP 、で P の位置を表わすことが出来るということが書いてあります。この本には、こう書いてあるだけで、残念ながらこれを使って何も論じてありません



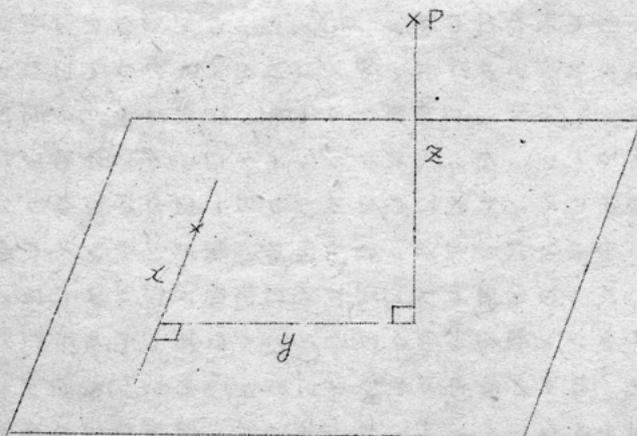
次が

Georges Palant (1660-1710)

この人が死んだ後で出た

Essais et recherches de mathématiques (1713)

「数学についてのエッセイと研究」という意味の本には、同じように x 、 y 、 z で空間の点の位置を表わすことが書いてあります。



それから、この本には球の方程式として

$$x^2 - 2ax + y^2 - 2by + z^2 - 2cz = \text{const}$$

というのが書いてあります。ただこの式だけが出ているので、球の方程式

$$(x-a)^2 + (y-b)^2 + (z-c)^2 = r^2$$

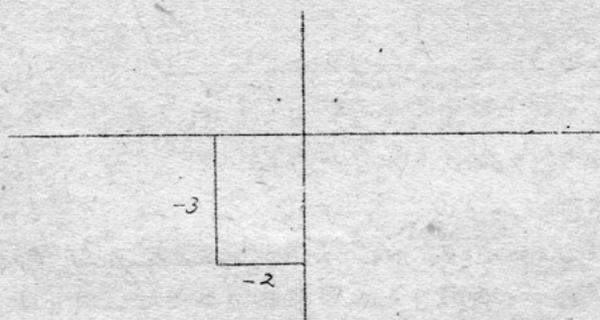
を変形すれば、たしかにこの式になるけれども、こういうことを知っていたものがどうか、又どうやって球の方程式を出したのかは、何も推察出来ません。

ただ、二点間の距離だけは知っていたものと想像されます。

二点 $P_1(x_1, y_1, z_1)$, $P_2(x_2, y_2, z_2)$ 間の距離 d は

$$d^2 = (x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2 + (z_1 - z_2)^2$$

また、頁の数のことをよく知っていないと解析幾何を本当に使うことは出来ないのですが、これらの人達は、その存在は知ってはいたでしょうが、これを使いこなしていたかどうかはわかりません。平面上の第三象限の点を、例えば $(-2, -3)$ というような座標をつかって表わしていたかどうかともわかっていません。



Clairaut (1713 - 1765)

微分方程式によく出て来る名です。Clairaut というとすぐ微分方程式に出てくるんじゃないかと言いますが、どんな人がよく分かっていません。この Clairaut が 1731 年に本を書きました。それは十八の時書いたことになりす。少しあやしい。でもパスカルなんかは、ずい分若い時書いているから本当かも知れません。それに本と云うのは、自分では本のつもりで書かなくても後で人が本だと云っているのもある。僕がフランスで勉強していた時、ガロアの書いたものを見ようと想って図書館に行きました。オイラーの全集やなんか、ずうっと積んであるのに、いくら探してもガロアがない。友だと思つて聞くと「あそこにあるんじゃないか」とつていうんですね。見ると、こんな面白い一冊しかないんです。その中には、学生時代の答案まで入っています。あんまり偉いことをやっちゃつて、一つ一つが大筆だから、一冊にしかならなくてもいいのです。数学には積んでいっているのがありますね。小さい

ものをたくさん集めるというけれども、人生では積分はききません。ちつぽ
けることをいくらやっても何にもなりません。さて、Clairautの本は

Recherches sur les courbes à double courbures

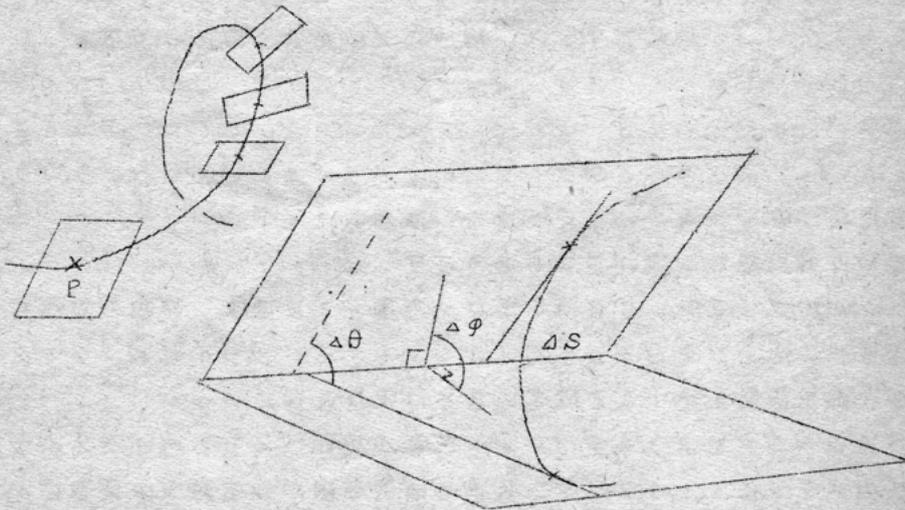
「二重の曲率を持つ曲線の研究」(1731)

というのです。「二重の曲率を持つ」というのは、空間曲線のことです。二
重の曲率というのが分りますか。平面上の曲線で、曲るというのはどうい
うことかと言うと、向きを変えること、向きに変化があること、数学的には、
接線が変わると云えばいいでしょう。曲率は曲った割合、つまり進んだ距離
 ΔS についての変わった角 $\Delta \theta$

$$\frac{\Delta \theta}{\Delta S}$$

ちやんと云うにはこれの極限をとると云いますね。これが大きいと深山曲つ
たような気がするだろうかと考えて見ると、これが大きいのは、下の ΔS が
小さくて、上の $\Delta \theta$ が大きいと云うことですから、ちよつと進んだのにな
と変わる、つまり急に曲ったことになります。——いいですね。

空間になると、接線の変化は曲率でいいとして、その上に捩れがあります。
変化した接線が、同一平面上にはないのです。そこで、曲線上の点 P で接触



平面を看えます。Pとすぐ近くの二点をとれば、三点ですから平面を決定し
ます。これらの点をPにうんと近づけた極限を考えて、接触平面とします。
もつとぴったりした表現で *kissing plane* と云う言葉もあります。

ΔS 進んだ時、接触平面の回った角を $\Delta \varphi$ として

$$\frac{\Delta \rho}{\Delta s}$$

を曲率といいます。このように空間曲線には曲率が二つあるというわけです。

normal, 接線に垂直ならみんな法線です。その中で接触平面の上のものを

Principal normal 主法線

接平面に垂直なもの

binormal 従法線

といいます。これはみな、外国語を訳したものです。法線も *normal* をた
だそう訳しただけなので、どうして法線なんて云はれても、とりや困りま
す。こういう言葉はみんなきつと、明治の先生方が訳したのだらうと思
います。昔の先生は國語がよく出来たから、いろんなことを考えました。*bi-*
normal を陪法線なんて書いたのがあります。バイノーマルの首を生かし
て、陪というのは従と同じような意味です。いや僕もあまりよく知らない
んですが、ただ、こんなのがあります。講談で、江戸に旗本というのがいま
した。それから江戸話で出てくる大名があり、旗本と大名の家来が喧嘩をす
ると、旗本は大名の家来のことを陪臣のくせにと云いました。陪臣という
のは家来の家来という意味ですから、陪は従と似たようなものです。

陰伏函数というのがあります。 $y = f(x)$ でなくて、 $F(x, y) = 0$ という
形で書いた函数を云います。これは *implicit function* の訳です。
インプリントの音をまねて陰伏としたわけです。まだいろいろこういうのが
あると思います。みなさんも見つけたら僕に教えて下さい。

導函数を導来函数と書いたのもあります。*derived function* デライ
ブド・ファンクション。これはなかなか含蓄があります。英語の先生ならも
つと舌を噛みそうな発音で云うでしょう。しかし、ドライブドファンクシ
ョンなら、導来函数と途中まで似ているではありませんか。

衡多という言葉があります。例えば送等で鳩山さんなら鳩山さんがワーツ
と多数の票をとるとします。ところがその送等区の当送確実の票数はかんじ
よう出まします。もし4人の委員を100人で送等する場合なら、100票を4
人の委員で分けると、何票とれば当送するのに十分か、これは25票じゃな
くて27票です。4に7を足した5で100を割つて、心配ならそれに7を
たすと、それが当送確実な票数です。後でゆつくり考えてごらんください。ど
うなります。当送確実な票数よりよければ、そのよ37人の票は無駄な

三
外

票です。こんなのを *quota* というのですが、これを衡多と訳します。これは代議士の送券なんかで、よっぽど警戒しなきゃいけないので、たとえば一人が100票とつて、あとが3, 2, 2, 1と分かれても、二人当選なら3票の人も当選です。これはよぶんの票を入れた人が、次には誰を入れたいかという意見は無視されているわけです。

今の先生でも明治30年くらいに生れた先生だと、まだこんなしゃれっ気があるようです。此の間

affine 換似

これを直訳して書いたのがありました。少々音を真似たつもりです。御婦人はこんなしゃれをやつて見る余裕がおありでしょう。

Recherches sur les courbes à double courbures の話をしていたんでした。この本には、はつきり

$$x^2 + y^2 + z^2 = r^2$$

を半径 r の球の方程式と書いてあります。

又

$$f(x, y, z) = 0$$

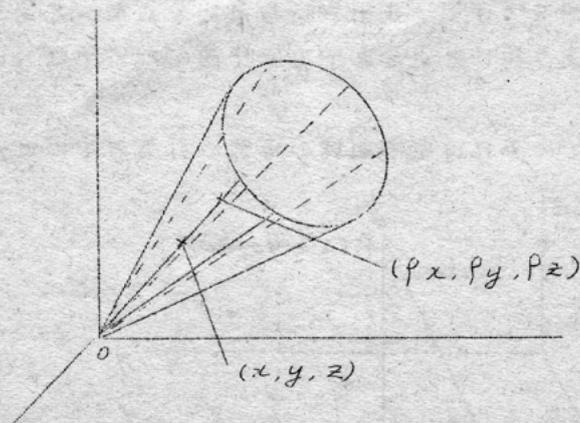
が、首次函数、つまり

$$f(px, py, pz) = p^r f(x, y, z)$$

時に $r=1$ で

$$f(px, py, pz) = p f(x, y, z)$$

の f を 0 と置いたものならば、この曲面は錐面になるということも書いてあります。



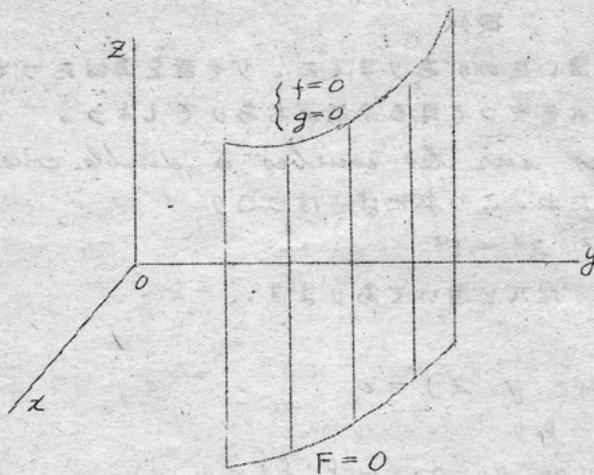
(x, y, z) と原点を結んだ直線上の点は (px, py, pz) でこれは $f(px, py, pz) = p f(x, y, z) = 0$

で $f=0$ の上にあります。ですから $f=0$ は原点を頂点とする錐面になります。

また、空間曲線を表わすのに方程式が二つあればよいということも出ています。

$$\left. \begin{aligned} f(x, y, z) &= 0 \\ g(x, y, z) &= 0 \end{aligned} \right\}$$

即ち曲線を二曲面の交わりとして表わすわけです。



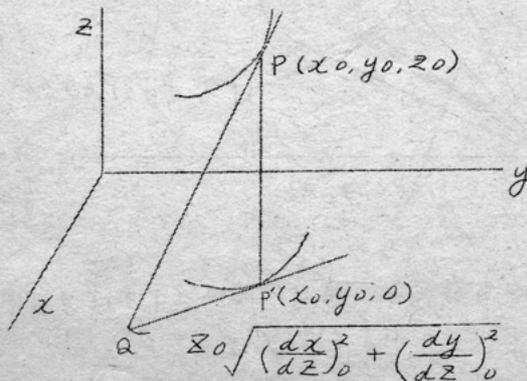
この二式から z を消去すれば

$$F(x, y) = 0$$

これは曲線の xy 平面上的正射影です。

$F(x, y) = 0$ は、 z はなんでもいいため、筒面なのですが、とにかく xy 平面だけに目をつけて、正射影になることが書いてあります。 x, y を消去すれば、同じように、それぞれ、 y, z 平面、 z, x 平面への正射影になります。

それからまた、この本には空間曲線の接線の引き方も出ています。



空間曲線上の点 $P(x_0, y_0, z_0)$ から xy 平面上に下した垂線の足は $P'(x_0, y_0, 0)$ です。曲線の正射影の P' に於ける接線をひき、そこから

$$z_0 \frac{\sqrt{dx_0^2 + dy_0^2}}{dz_0}$$

書きかえれば

$$z_0 \sqrt{\left(\frac{dx}{dz}\right)_0^2 + \left(\frac{dy}{dz}\right)_0^2}$$

の距離を切りとつて Q とし、 Q と P を結ぶと接線が得られます。

接線の方程式は

$$\frac{x - x_0}{\left(\frac{dx}{dz}\right)_0} = \frac{y - y_0}{\left(\frac{dy}{dz}\right)_0} = \frac{z - z_0}{1}$$

ですから Q 点は、 $z=0$ として x, y は

$$x = x_0 - z_0 \frac{dx_0}{dz_0}, \quad y = y_0 - z_0 \frac{dy_0}{dz_0}$$

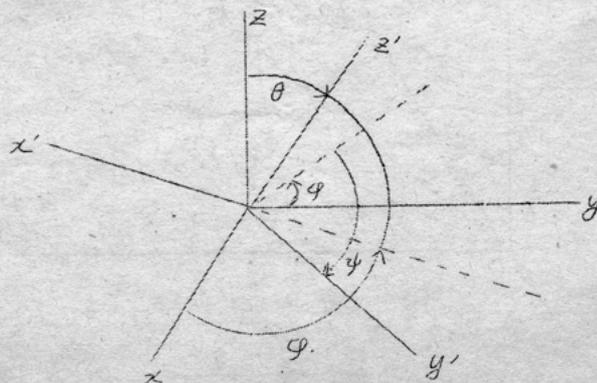
ですから、 Q と $(x_0, y_0, 0)$ の距離は

$$z_0 \frac{\sqrt{dx_0^2 + dy_0^2}}{dz_0}$$

になります。

Euler (1707-1783)

になると、空間の点の座標 (x, y, z) に角の値が入って来ます。Euler は立体解析幾何を進歩させようとしてやったものではありません。ほか一杯



することがありましたから。ただ力学などの途中で、研究する必要が出て来てやつたのだと思います。力学で大切なのは、座標軸の変換の公式に出て来る Euler の角です。座標軸の回転に使います。

まづ、 z 軸を中心として、 z と z' のある平面が x, y 平面を切る直線と、 x 軸とのなす角 φ だけ回します。次に y 軸を中心として z が z' と重なるまで角 θ だけ回し、最後に z 軸を中心として、 x, y が x', y' と重なるよう角 ψ だけ回します。角 θ, φ, ψ を Euler の角と云います。

僕たちも入学の時は、この力学ですごくいじめられました。Euler の角なんか、よく出て来て実に難しい。吉江先生に、どうも力学は難しい過ぎると云うと、先生は僕らもとてもいじめられたと云われました。いやあ先生の時の問題はどのようなのですか、と聞くと、「一つの円盤がある。しかもそれがぜんぜんすべすべの円盤で、その上にお荷が乗せられたとして、如何にしてその外に出るか」というのだつたそうです。成程これは難しい。すべすべだから歩けないし、飛び上つても毎直には飛び上れるが、斜めには飛べない。一体どうしたらいいのか、いくら考えてもわかりません。とくに先生は卒業したんだから出来たはずだと云うので聞いて見ました。先生は僕の答は着物を脱いで捨てるんだと云はれるのです。どういふわけかと云うと、着物があつちへ行けば、その反動で自分がこつちへ来る。それで終いに外へ出られるということです。果してそうなるかどうか知りませんが。

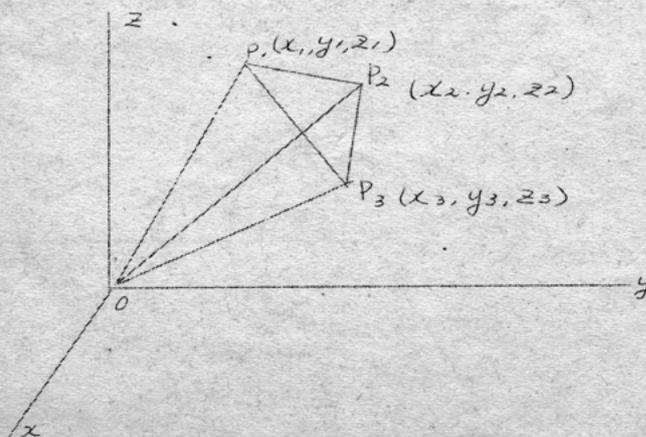
最後に

Lagrange (1736 - 1813)

Monge (1746 - 1818)

の二人をあげます。

Lagrange は四面体の体積をやりました。



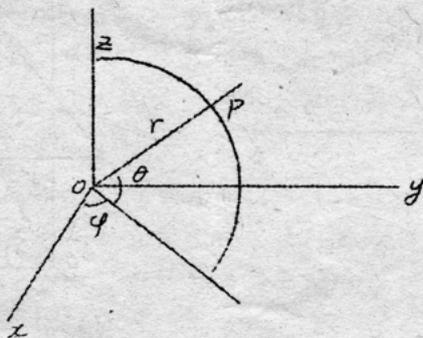
空間の三点 $P_1(x_1, y_1, z_1)$, $P_2(x_2, y_2, z_2)$, $P_3(x_3, y_3, z_3)$ と原点 O を合せて作った四面体の体積 V は、

$$V = \frac{1}{6} \begin{vmatrix} x_1 & y_1 & z_1 \\ x_2 & y_2 & z_2 \\ x_3 & y_3 & z_3 \end{vmatrix}$$

O を頂点とする三稜が互いになす角を α, β, γ とすれば

$$V = \frac{1}{6} OP_1 \cdot OP_2 \cdot OP_3 \sqrt{\begin{vmatrix} 1 & \cos \alpha & \cos \beta \\ \cos \alpha & 1 & \cos \gamma \\ \cos \beta & \cos \gamma & 1 \end{vmatrix}}$$

それから Lagrange は極座標のことも書いています。



P を r, θ, φ で表わします。

Monge は、画法幾何をやりました。また微分方程式論、微分幾何なんかをやりました。

Monge は直線を

$$\left. \begin{aligned} y &= mx + n \\ z &= nx + h \end{aligned} \right\}$$

で表わしています。

直線の上には点がどれくらいあるかということ、 ∞^1 あります。では、平面上にはどれくらいあるかといえは ∞^2 だけあります。同じように空間には ∞^3 だけ点があります。

それでは、平面上に直線がどれくらいあるか、ということ ∞^2 あります。直線は $y = mx + n$ ですから、媒介変数が二つで ∞^2 になるのです。空間には直線は ∞^4 あります。空間直線は

$$\left. \begin{aligned} y &= \underline{m}x + \underline{n} \\ z &= \underline{r}x + \underline{h} \end{aligned} \right\}$$

で媒介変数が4つだから ∞^4 になるわけです。直線の方程式として

$$\frac{x-x_0}{l} = \frac{y-y_0}{m} = \frac{z-z_0}{n}$$

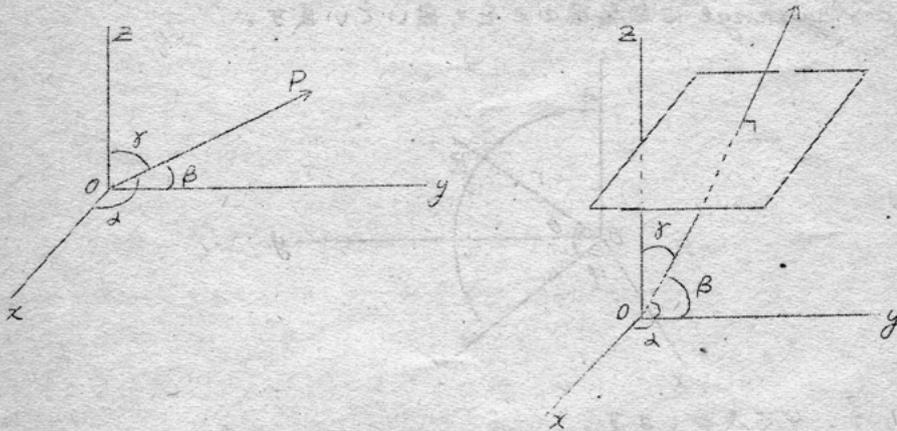
を使えば、 l, m, n, x_0, y_0, z_0 と ∞^6 になってしまいますから、媒介変数の一番少なくとれる方程式を使わないと ∞ の何乗かが決まられません。

また、Mongeは、平面

$$Ax + By + Cz = D$$

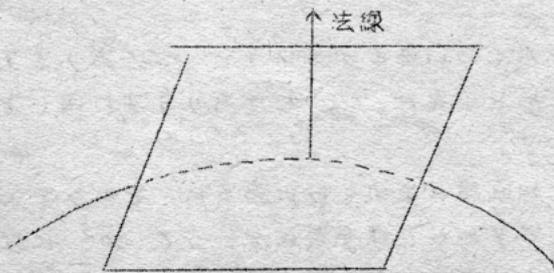
の方向余弦ということを行いました。

$$\frac{A}{\sqrt{A^2+B^2+C^2}}, \quad \frac{B}{\sqrt{A^2+B^2+C^2}}, \quad \frac{C}{\sqrt{A^2+B^2+C^2}}$$



方向余弦とは、直線OPがx, y, z軸となす角を α, β, γ とすると、 $\cos \alpha, \cos \beta, \cos \gamma$ のことで、平面では法線の方向余弦のことになります。

曲面、 $f(x, y, z) = 0$ があつて、その上の点 (x_0, y_0, z_0) での接平面を考えます。



方向余弦は

$$\frac{\partial f}{\partial x}, \quad \frac{\partial f}{\partial y}, \quad \frac{\partial f}{\partial z}$$

で、接平面は

$$\left(\frac{\partial f}{\partial x}\right)_0 (x-x_0) + \left(\frac{\partial f}{\partial y}\right)_0 (y-y_0) + \left(\frac{\partial f}{\partial z}\right)_0 (z-z_0) = 0$$

になります。曲面を $z=f(x,y)$ の形で書けば、接平面は

$$z = \left(\frac{\partial f}{\partial x}\right)_0 (x-x_0) + \left(\frac{\partial f}{\partial y}\right)_0 (y-y_0)$$

となります。

$$\left(\frac{\partial f}{\partial x}\right)_0 = p, \left(\frac{\partial f}{\partial y}\right)_0 = q$$

と書き、 p, q を *Monge* の記号と云います。これから接平面の方向餘弦を求めるとは

$p = q = -1$ で、平方の和を1にすればいいのですから

$$\frac{p}{\sqrt{p^2+q^2+1}}, \frac{q}{\sqrt{p^2+q^2+1}}, \frac{-1}{\sqrt{p^2+q^2+1}}$$

となります。

時間がなくなりましたから、これで終りにしますが、今日お話しした人達はみんな、立体解析幾何を発展させようと思つてやつたわけではありません。ほかの目的を持っていて、空間曲線を調べているうちに、いろいろのことが解つて来て、立体解析幾何が発達することになったのだと思います。僕も何をしようと思つてかゝらないで、いろいろのことをやつてみようと思つています。

臨時總會記録

十一月十四日(水)

午後一時、会長豊泉しげの司会で開会。

礼拝 平野先生。

開会にあたって 豊泉しげ

会則十一條、十八條により、会則を変更するために總會を開きます。

新会則により会計監査を置くことになるので、これが来年三月会計監査をし、報告することが出来るよう、来年の定時總會を待たず臨時總會を決定しました。

午後一時二十五分 池野和歌子(十年平)に司会交替。

六月二日の総会で幹事会に委嘱された件(前号参照)についての報告、
溝口雪麿(九年卒)

通信費 年百円を会員から集める事に致しました。

会合費 会合が行われる度に五拾円から百五拾円位までの向を実費として、出席会員からいただくことになりました。

書記より 根岸愛子(二十四年卒)

幹事会の報告を致します。今まで、講演会、臨時総会、研究会のため、幹事会を持ちました。

七月二十六日 幹事の役割をきめました。(別記)

九月八日、研究会のお報告をするプリントのことなどをきめました。

十月十三日 女子学院でしまして、講演会のことを具体的に決定しました。

十月二十七日 臨時総会で会則変更をすることになり審議をしました。尚その後で当日の役割を決めました。

研究会について 中屋登子(七年卒)

八月に係りをきめまして、十月から四つの研究会をはじめました。(以下別記研究会の報告をぞらん下さい。)

会計中間報告 今井チエ子(十七年卒)

(別記)をぞらん下さい。

まだ終身会費を納めてない方が沢山ございます。クラス会毎の時になるべくお集め頂きたいと思ひます。

議 事

議長送出 司会者に一任

会則変更(別記)を、各章を區つて討議する。会長の懇切な説明の後、各章通過。全員挙手により決定。

会長発言。新会則十条により、十年卒業の鈴木侑子さんと、二十七年卒業の中村嘉代子さんに会計監査を委嘱したいと思ひます。全員拍手によつて決定。

昭和31年度東京女子大学同窓会教専会会計中間報告

31, 10, 31, 現在

収 入

前年度よりの繰越金	41917	円
終身会費	7300	
名簿代(ヌフ年発行)	320	

グローテ売上 7,000
 専 附 金 4,000
 雑 收 入 1,713
 計 62,250

天 出
 講 演 会 費 2,000 円
 通 信 費 17,626
 印 刷 費 18,342
 消 耗 品 費 420
 雑 費 6,274
 計 44,662
 差引残高 17,588 円

終身会費納入者数未納者数年別調

年 次 年	納 入 済		未 納		年 次 年	納 入 済		未 納	
	人 数	金 額	人 数	金 額		人 数	金 額	人 数	金 額
6	1	200 ^円	5	1,000	20.9月	6	1,200 ^円	22	4,400
7	1	200	7	1,400	22 数学	3	600	34	8,800
8	6	1,200	4	800	22 数学	17	3,400	20	4,000
9	5	1,000	6	1,200	23 "	17	3,400	58	11,600
10	5	1,000	8	1,600	24 "	21	4,200	47	9,400
11	11	2,200	3	600	25 "	4	1,200	34	10,200
12	6	1,200	5	1,000	26 "	5	1,500	29	8,700
13	3	600	2	400	26 短	3	900	7	2,100
14	2	400	3	600	27	4	1,200	5	1,500
15	2	400	2	400	27 短	10	3,000	18	5,400
16.3月	3	600	5	1,000	28	8	2,400	37	11,100
16.12	1	200	14	2,800	29	3	900	35	10,500
17.9	13	2,600	14	2,800	30	6	3,000	28	14,000
18.9	12	2,400	14	2,800	31	1	500	17	8,500
19.9	9	1,800	11	2,200	計	188	43,400	494	128,800

東京女子大学同窓会 数専会 会則

第一章 総 則

- 第一條 本会は「東京女子大学同窓会数専会」と称する。
- 第二條 本会は会員相互の親和と学術的研究を図ることをもつて目的とする。
- 第三條 本会は前条の目的を達するために左の事業を行う。
- 一、講演会、研究会並びに講習会の開催
 - 二、会誌の発行
 - 三、その他

第二章

- 第四條 本会の会員は左の通りとする。
- 一、東京女子大学数学専攻部 数学科及数理科卒業生
 - 一、東京女子大学数学専攻部数学科及数理科に一年以上在学した同窓会員。
- 第五條 本会の趣旨に賛同する東京女子大学現教員及旧教員はこれを客員とする。

第三章 役 員

- 第六條 本会には左の役員をおく。
- | | |
|------|-----|
| 会 長 | 一名 |
| 副会長 | 一名 |
| 書 記 | 二名 |
| 会 計 | 二名 |
| 会計監査 | 二名 |
| 幹 事 | 若干名 |
- 第七條 会長は会員中より会員の推せんしたのについて総会でこれを決定するものとし、任期は二年とする。
- 会長は会の企画並びに運営に関する事務を統括する。
- 第八條 副会長は幹事の互選によりこれを決定し任期は二年とする。
- 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは会長の職務を代行する。
- 第九條 書記、会計は幹事の互選によりこれを決定するものとし、任期は二年とする。
- 第十條 会計監査は総会の承認を得て、会員中より会長がこれを委嘱するものとし任期は二年とする。
- 第十一條 幹事は各クラスから一名を送出する。

第十二条 役員の補欠を必要とする時は前記各手続によるものとし、補欠者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 総会

第十三条 定期総会は年一回会長がこれを召集する。
会長は必要に応じ幹事会の議を経て臨時総会を召集することが出来る。

第五章 幹事会

第十四条 幹事会は会長が之を召集する。
第十五条 幹事会は会長の諮問に応じ本会の行うすべての企画運営について会員の総意の反映するごとく審議決定を行う。

第六章 会計

第十六条 本会の会計年度は毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終る。
第十七条 本会の会費は会員各自が修身会費として次に定める金額を卒業時に納入する。

昭和六年卒 ～ 二十四年卒 二〇〇円
昭和二十五年 ～ 二十九年卒 三〇〇円
昭和三十年卒以降 五〇〇円

第十八条 本会は通信費を会費以外に必要に応じて徴収することが出来る。

第七章 会則の変更

第十九条 本会会則を変更するときは総会で出席者の三分の二以上の賛成を得なければならぬ。

附 則 本会則は昭和三十一年十一月十四日より実施する。

当日出席者

卒業年

- 6 豊泉しげ
- 7 中屋澄子
- 8 森田郁、寺光よし、小山英子
- 9 清口雪恵
- 10 池野和歌子、鈴木洵子
- 11 宇佐見静子、花岡松枝
- 12 胎橋たか
- 13 吉利花枝、多賀静子

- 14 堀すみ子, 高根幸子
 16 伊閑美穂子, 渡辺綾子
 17 今井夕工子, 辻井茅子
 18 永松由起子, 花安路子
 19 柏木貞壽美, 矢部桂子, 原美淑子, 畠山悦子, 長谷川ふさ子
 22 大平和子, 千本淳子, 藤井隆子
 24 新階和子, 根岸愛子
 26 岡由起子
 27 中村嘉代子
 28 安藤友子
 29 岡関和子
 30 高宮弘子, 牧野貴代子
 31 西脇千枝子

研 究 部 報 告

研究会の係が決つて二二回の会合を重ねた後互の様々な面知の采書を東京都及び近県にお住いの約五百名の会員に各幹事の司を通じて九月上旬発送致しました。

一、学生時代の復習と中、高校の数学とその教授法に関するもの

- (イ) 解析 小林先生
 (ロ) 幾何 土居先生 (法政中高校の先生)
 月一回 第二土曜 午後二時～五時
 (二科目つづける) 費用一科目月百円
 場所 女子学院同窓会館

二、一般教養に関するもの

- (イ) 現代数学の展望
 現代数学全般の展望を目標として、こし当り現在勉強しているらしい二、三の卒業生を中心として、必要な基礎概念から始めたいと思います。

第一 第三火曜 於女子大 午後五時半～七時半

- (ロ) 数理統計学
 入門から理論と応用に亘る 小野原先生を顧問として
 第二 第四木曜 於女子大 午後六時～七時半

費用一科目 月百円

十月から始める予定で九月廿日までに申込みを頂くことにしましたところ、東京都ばかりでなく、神奈川縣、埼玉縣からも又御病氣中の方小ごお子様をお持ちの方なども、第一回の船泊六年から今年の春御卒業の方まで八十名ばかりの方から熱心なお返事を頂きました。それを参考にして、花岡、茶原部、西宮、奥田、奥野、根岸諸師にお乗り頂き、係のものと内容について色々打合せ決定して、申込者に詳細報告致し十月から始めて居ります。すべて半年を一区切りとして計画を立て、継続する科目でも編成し直します。四月には新しい会費も入りますので三月中に次期の計画を立て申込を受けると予定です。

各科にはどれかれ二名ずつの責任者を決めてお世話をお願いすることに致しました。以下各科目について責任者の方に報告して頂きます。

一、教授法に関するもの

(イ) 解析

「無限と連続」 還山啓者テキストに小林先生に講義をしていただいています。出席者は第一回三十三名、第二回三十二名で第三回は十一月八日の予定。古い卒業生も若いものも、いっしょに学生時代にかえって、小林先生のお講義のさける花びらに浸っています。数学を通して、生きる力が与えられていく思いです。(池野)

(ロ) 幾何

現任の中、高成の幾何教科書には、教え方に一貫した流れというものがなく、各章ばらばらである爲に生徒は頭の中に統一出来ない。これが幾何をきらいにする原因ではなかるうか。土居先生はドイツ・フランス・アメリカ、ソ連の教科書を例にとられて、移動、回転を中心とする幾何学の体系を独自にまとめようときれていらつしやいます。その研究の一端を私産に公開して下さっています。

十月の第一回目は角の測り方を十進法にしたらどうかという問題と平行移動、回転による四変角形の角の測り方。十一月の第二回目は、米、ソ、日の小学校の数学の教え方の比較と線対称の問題についてでした。申込数は四十名。出席数は第一回が二十七名、第二回は二十名です。(藤井)

二、一般教養に関するもの

(イ) 現代数学の展望

最近の数学がどんな分野にどんなふうに変展しているかという

ことも、一むたり知るために、というのが最後の目的で「現代数学の
展望」と名付けました。

毎月第一、三火曜日午後六時から、二十年卒西宮範氏、二十四年卒
坂岸愛子氏を指導者として、十人内外が出席して、Newman の
「Elements of the Topology of plane sets of points」
を論議しています。順番は最初の日、坂岸先生がアミダできめて下さ
いました。毎回一人が割当量を読んで来て発表します。自分が当った
時、わからない所につづつた時、三十分位早く数学研究室においで
になれば坂岸先生がつかまりますから、そこでちよつと個人教授をお
ねがいするという手もあるわけです。

以上のように申しますと、まるでコワイ会のようなのですが、両先生は
親切だし、中屋、溝口両先輩をはじめ愉快的な方々の集まりでとても面
白い会ですから、これからでも皆様の参加をおすすめします。まだ今
からでも間に合います。(柏木)

(13) 数理統計学

始め希望者十名位の予想で何か本を決めて読み、小河原先生にかけ
の御指導を頂くつもりで居りました所、申込者が三十名位ありました
ので、あらためて小河原先生にお講義をお願い致しました。テキスト
は宮沢光一著、近代数理統計学通論で、少しむづかしい様ですが、い
ぬいにわかり易くお講義して下さいます。今までの三回のお講義で、
二十八頁の多次元分布のあたりまで進んでおります。出席者は二十名
前後で、そろそろ願ふれも固定して来た様です。

十二月はあまりおしつまらない中に終わせたく、特に 六日(第一木)
廿日(第三木)に変更致しました。(中屋)

なお一月は全部の科目を一週間ずらして、次の様に変更致しますから御
了承下さい。

- 一、(イ) 解析 (ロ) 幾何 十九日(第三土)
- 二、(イ) 現代数学の展望 八日(第二火) 廿二日(第三火)
- (ロ) 数理統計学 十七日(第三木) 三十一日(第五木)

他に研究部の仕事として、幼児、児童の数的概念の発達過程についての
研究グループを持ちたいと思います。これは、主に教育心理の分野に属す
る事かも知れませんが、子供の数概念の発達の過程を調べたり、数概念の
発達の早いおそいが将来まで影響するかしないか、又数学に対する興味が
どの様になるか等という研究です。即ち今では、何才児の数概念の平均は

どの位という量のつながりの研究はあるけれど、一人一人の子供についての
 数のつながりの調査等はあまりされてないし、興味のある問題ではない
 かしらというお話を伺いました。こういう事は長い間かかる事でしょうが
 数の分野を少しでも見せて頂いた私達母親が、こんな事をしていつた
 らと存じます。もし興味をお持ちの方が沢山おありの様でしたら、専門の先生
 のお話を伺ったり、皆で子供達について調べたりして行き度いと思いま
 すので、一七〇千本宛御意見御希望を添えて御申込み下さいませ。

研究会各責任者氏名

解析	10 池野和歌子	10 雨永領子
幾何	22 藤井隆子	22 有藤千枝
算数	19 柏木真尋美	30 高宮弘子
統計	7 中尾澄子	25 佐藤幸子

通

信



会を重ねる度に顔見知りも増えて参りました。古い卒業生も新しい卒業
 生も見分けもつかない位若返り親しさも愈々ましてきました。若い人達と私
 を並べて勉強していると旨慮しさがこみあげて参ります。次に数専会風景を
 ニ三拾って見ましょう。

- ① 秋娘と荷を並べて統計学の講義を聞いているNさん。早く子供を育てあ
 げて一落着した処で勉強を楽しむ。之も仲々こぼものらしい。皆さん真似
 てみたいとは思いませんか。早く子供を育てあげる事です。秘訣はNさん
 に聞いて下さい。"家争一切は旦那様も交えて当番制らしい"とは会員の
 一人がNさんの家を訪ねたら、旦那様がふき掃除、奥様は平然と今日は主
 人の当番なくです。との挨拶だったとか、羨しい限りである。然し奥様が
 数専会の爲に集中出来るのもこの旦那様のおかげである。
- ② 雨は降る。予定は直る。矢野先生は仲々講演の日取をおつしやつて下さ
 らない。気をもんだMさんは今を新調して主人を使いに出した。前日お客
 様は今を貸してあげたからである。大学教授も家庭にあつては童顔のもの
 の、微笑ましい限りである。こゝにも亦数専会の陰の力を知る。感謝限り
 なし。数専会はこうして日に日に成長している。
- ③ もしもしH先生ですか、この次の幹事会迄に〇〇へ電話をかけて返事を
 さいておいて下さい。もしもしK先生ですか、恐縮ですが之を〇〇さんに
 伝言して下さい。と先生に遠慮なく凭りかゝる私達。いけないでしょうか。

④ 幹事会と言へば正確に集まつて下さる。止むを得ない用事の時は届を出すか代理をたてる。仕事は積極的に引受けて下さる。無理だなあと思われる事でもやってみましょうとあらゆる試みをする。こんな幹事を持つ会が他にあるでしょうか。この陰陽数々の深意に全くほだされ感極まつて何時も私は泣いている。初老の声をこいてはじめて人の世の美しさに感涙し人と共に世にあるありがたさの荷であるか教えられ、教事会は御趣をたいてもピチピチ張り切り^{イッテ}生命に溢れ^{イッテ}いる争を身血に感ずる。(豊泉しげ)

× × ×

会報第三号で、北海道の清川よしさんの高松の日本教会総会に出席なさった時の御感想を読みましたが、私も宇佐見さんと高松まで出かけて行き、三日向真面目に会に出席して、女の方を見るともしや知った方ではないかと注意して見たり、受付の名箋をさがして見たりしたのですが、結局会場で中谷先生にお目にかかった以外どなたにもお会い出来ず、がっかりして帰って来た事を考えて、今年の東京の総会にもさつと地方から出て来られる方もあるだろうし、はるばる出ていらした方に淋しい思いをおさせしてはすまない、今年は是非来る教会を作りたいと思つて居りましたら豊泉さんが会報を送る時、皆さんに呼びかけて下さいました。八月の十一日あまり準備も出来ない中に来てしまい、九時頃会場のお茶の水大に行つて見ると豊泉さんがいらして、翌十二日のお昼休みに山の上食堂が借りてある相で皆様にお知らせする方法を考えた末、翌日まではり紙を作つてはることにになり、その日は伝言板に書いたまゝで帰ることに決めました。その時二十二年卒の大平さんにお会いしました。

翌十二日九時頃二人ではり紙を持って、教育大附橋中から附橋小、窪町小と各会場を廻り歩き十枚ばかりの紙を一々お願ひしますと頭をさげてはらせてもらい、暑いし、豊泉さんは歯ずれでびっこを引くし、一廻りするのに一時間半ばかりかゝりました。十一時頃から二人は山の上食堂ではり紙の効果はいかにと待ちかまえて居たのですが、結局来て下さったのは、小林中谷両先生と大平さん、それに山口県から上京していらした仁保さんが前以つてお知らせしてあつたので中大からかけつけて下さったので計六人、はり紙を見て来て下さった方は一人もなく、一時間ばかりお話しして記念撮影をして先生方は午後の御予定があまりでお別れしました。せつかく金三百円也の総会の会費を拂つてあるのだから会に出なければと思ひながら、すっかりくたびれてその気力もなく、はり紙をはがして廻るのがせいっぱいでした。

もう少し早くから計画して、第一日目の始めに張っておけばよかつたのかも知れませんが、来年度の秋田まで出かけて行って第一日目に会が始まる時、東京女子大学卒業生の方は何時何処で-----」という掲示を出そうと思ひながら帰つて早函名簿をくつて見たのですが、秋田任住の卒業生の方は殆んど居られないようでした。それでも来年度の八月には事情がゆるせば秋田まで出かけて行って今年と同じことをくり返すつもりです。どうか皆様、来年度の秋田の総会に行がれましてそこで数専会の集まりを致しましょう。又秋田の血にお住いの方僅は遠くから来た方産に淋しい思ひをさせないよう御協力下さい。私も東京から出かけて行ってお手伝いするつもりです。(中屋登子)

求人求取の名簿作成について

会員の向で近頃家庭教師をやつてみたいとか、或いは家の子供を頼みたいけれど誰か適当な卒業生がいらつしやらないかとの声を耳にしますので、それにお互いの間の連絡を密にしたいと思ひ、名簿を作る事にしました。先日匡数学研究室に家庭教師の求人が沢山あつて先生方もお困りになる位でしたがどうやら近頃さばけました由伺いました。又時々若い方にパートタイムの仕事を急にあつても適当な方がみつからなくてお断りしてしまう事もあるそうです。求取に居られる方がお止めになる時、其の後に卒業生の誰方がを推薦して下さるとよいと思ひます。その他御主人のお勤め先に求人がありましたらお知らせ下さる等、皆様御協力をお願いします。

求人求取共に条件と連絡先を明記して、数学研究室宛にお知らせ下さい。尚女子大の厚生課も研究室と連絡がとれておりますから御利用下さいませも結構です。求取の申込をなさつた場合、別に取がお決まりになりました折は至急研究室へ御連絡下さい。

先生方御住所

小 塚 潔 一	北多戸郡小金井町小金井3018
千 野 雪 衣	杉並区上荻窪2の75 (39) 5949
中 谷 太 郎	杉並区久我山3の141
中 村 進	北多戸郡国立町97
小 河 原 正 己	杉並区馬橋4の499
魚 返 正	中野区広町20 広町住宅137

数専会幹事の役割

役割	氏名	卒業年	住所	電話
会長	豊泉 しげ	6	世田谷区上北沢1の429 中村方	(33)6825 女子学院
副会長	中屋 澄子	7	杉並区東田町1の28	(97)5029 文京高校
庶務				
書記	根岸 愛子	24	中野区大和町311内山方	(39)2255 東京女子大
	小林 多恵子	27	渋谷区代々木西原町911 西原荘	(48)1673 東洋英和
通信	片岡 ヒサ	12	中野区大和町210	(38)2352
	伊 肉 美穂子	16*	中野区向台町35 向台住宅RA13号	
	永松 由紀子	18	杉並区天沼2の554	(39)0118 立教女学院
	金光 菊美	20*	岳川区大井滝王寺町4404	
庶務	溝口 雪恵	9	杉並区井荻2の125	
	多賀 静子	13	武蔵野市吉祥寺215 紫明荘内	(39)武蔵の 2576
	石 又 梨子	27	杉並区成宗2の875	東京女子大
	西 脇 千夜	31	目黒区宮前町64	(78)4558
会計	今井 夕工子	17	新宿区戸塚4 戸山アパート30~685	東京女子大
	奇 藤 淑子	26	文京区駒込解明町418	東京女子大
会計監査	鈴木 尚子	10	八王子市万町2075	
	中村 嘉代子	27	杉並区和田本町30	
事業部				
会取	梶 花 み	15	新宿区下落合20702	
	柏 泉 淑子	16	渋谷区幡谷本町1061 教育大学通舎	(37)2276
	梶 井 博子	20	杉並区和泉町717	(32)3300
	藤 井 隆子	22*	武蔵野市吉祥寺1780	(38)4500 富士高校 定時制
	小林 昭	23	北多摩郡小金井町小金井3016	東京女子大

講演会 鈴木 ツ タ 8 練馬区豊玉北4の33の2 (70) 4115
 王川 高板
 (99) 2691
 白 宅

池野 和歌子 10 世田谷区成城町379 (42) 0087
 和光学園

川 茂田 弘子 11 新宿区下落合1の479

高 瀬 幸子 14 杉並区狹窪1の135

岡 光 子 28 大田区雪ヶ谷741 (37) 4644

研究会 中 屋 澄子 7 前 出 前 出

柏木 真 寿 美 19 杉並区永福町86

佐 藤 幸 子 25 杉並区成東3の534

高 宮 弘 子 30 板橋区前野町179 (96) 3372
 自 宅
 (92) 2161
 東京大学内線
 3108

◎ 幹 事 外 責 任 者

氏 名	卒業年	住 所
朝 永 鏡 子	10	杉並区西田町1の436
西 宮 鏡	20	文京区駒込林町 146 (82) 0606
千 本 淳 子	22*	武蔵野市吉祥寺223
芥 藤 千 枝	22*	港区赤坂青山北町5の24

編 集 後 記

○クリスマスの日を迎え、会員の皆様にはお忙がしい毎日をお歸しの事と存じます。毎年、今年こそはと諸々の計画をたてるのでございますが、年の終りになると、何も出来なかつたというのが、悔らざる告白とあります。今年も、もうすぐ新しい年を迎えるという位に押直つてしまいましたが、第四号をお送り出来ますのが、せめてもの慰めでございます。

○新しい役員が構成されましたより半年、僅かながらこの会も活気がいて参りました。それにつけても、前会長の山下様にはこの会をここまで育てる下積の御苦労を負って下さいました事を思い感謝致します。山下様

- の原稿は文藝の七月に既にいただいたのでございますが、十一月の臨時總會の後に「会報」をまとめて出す事になりました爲におそくなりました。
- この号は高木先生、矢野先生の御講演をのせる事になり、少し盛り沢山になりましたが、出席されませんでした方々に少しでも御講演会の梗概をしめ込んでいただきたいと思い、両先生のお話を忠実に記録致しました。
- 中村先生にはお忙がしいところを快よく原稿をお引受下さり、僅かな時間で書いて下さいました。團正徳先生は私共の古い教科書にはおなじみのお名前でございます。中村先生は團先生より数学科の結婚率を調べる事を依頼されました由。御結婚の御通知は何をおいても先づ数学研究室に下さり、先生をお助け致しますよう。付け加えて、今度同窓会で名簿が発行されますので、第3号以来の改姓、住所変更はのせませんでした事をお断り致します。
- 今度この号から「会報」は横書きにする事に致しました。研究会が活発になり、區々研究発表をのせるようにしてゆきたいという意図からです。
- 十一月十四日の臨時總會の報告中、会計報告にあります様に、終身会費の未納の方が多く様でございます。何をしますにも先づ資金がないと動けません。御都合のつきました折にお早くお送り下さいます様お願い致します。尚今年から終身会費だけではとても間に合いませんので通信費百円をいただくことになりました。御協力をお願い致します。
- 幹事の役割の一覧をのせました。御意向なり御忠告がございましたら御利用下さい。(会報係)

会 報	第 四 号
発 行 日	昭和三十一年十二月
発 行 者	東京女子大学同窓会 教専会
発 行 所	東京都杉並区井荻三丁目 東京女子大学内
印 刷 所	東京都杉並区西高井戸二ノ三 氷見印刷所 電話(39)7936番

昭和37年6月2日総会の出席者

卒業年	氏名
6	豊見しげ、樋口智恵
7	中屋澄子
8	小山英子
9	溝口雪恵
10	迎野和歌子、岡真子、鈴木桐子
11	鈴木成子、川茂田弘子
12	船橋たか
13	多賀静子
14	高瀬幸子
15	清水千代
17	田中百合子、今井千工子
19	柏木真寿美、原美根子
20	梶井博子
22	吉村ひづる
22*	藤井隆子、十本淳子
23	鈴木吉、谷口昭、八十島米
24	古谷妙子、新橋和子、根岸愛子
25	鶴田みゆ子
26	秋本久美子、芥藤淑子
26*	中村豊子、山田恵波
27	工藤多恵子

平業年	氏	名
27*	辰辺光子、越前昭子、中村嘉代子、石丸淑子	
28	小野彩子、岡光子	
29	関美和子	
30	面山慶子	
31	大和田せつ子、武末美佐子、西脇千枝、 佐藤浩子、三巻床子	